

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

Asia Weekly (1/8~1/11)

発表日：2008年1月16日（水）

～成長鈍化の兆しか、それとも一時の休息か～

第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 西濱 徹
(03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
1/8（火）	(韓) 12月生産者物価指数（前年同月比）	+5.1%		+4.4%
	(韓) 12月輸出（前年同月比）	+15.5%	+16.6%	+17.1%
	(韓) 12月輸入（前年同月比）	+24.0%	+17.2%	+25.9%
	(越) 12月自動車販売台数	12,006		10,110
	(シンガポール) 10-12月期 GDP 成長率 (前期比、季節調整済)	▲3.2%		+4.4%
	(インドネシア) 中銀金融政策委員会	8.00%	8.00%	8.00%
1/10（木）	(韓) 韓銀金融政策委員会	5.00%	5.00%	5.00%
	(韓) 12月消費者信頼感指数	105.0		104.3
	(比) 11月輸出（前年同月比）	▲2.0%		+10.5%
1/11（金）	(印) 11月鉱工業生産（前年同月比）	+5.3%	+7.4%	+12.0%

(注) コンセンサスは REUTER 調査

～韓国～

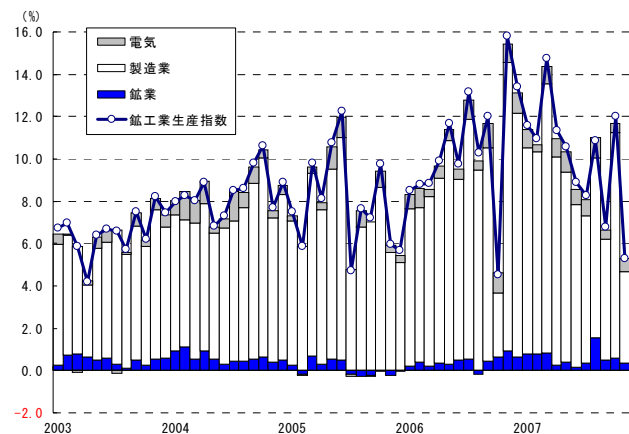
1月10日の韓国銀行(中央銀行)金融政策委員会において、政策金利を5.00%で据え置くことが決められた。同銀は昨年7月と8月に相次いで25bpずつ利上げの決定を行ったが、その後はサブプライムローン問題等による市場の混乱、米景気減速懸念などの影響もあり、市場は今回の据え置きを見込んでいた。韓国経済は、輸出及び国内消費が堅調に推移しているものの、国内投資の伸びが鈍化していることから、市場には、今年度第1四半期中に利下げを行うとの観測がある。しかし、国際的な石油市況の影響から足元の消費者物価が上昇基調にあるため、当面は金利据え置きスタンスが継続するものと思われる。

～インド～

1月11日にインド中央統計局が発表した昨年11月の鉱工業生産指数は前年同月比+5.3%と、13ヶ月ぶりの低位に留まった。市場では11月の伸びを+7.3%と見込んでいたことから、足元の景気の減速が懸念されている。鉱工業生産のうち、特に製造業については、10月の+13.4%から+5.4%と伸び率が半分に落ち込んだほか、鉱業も同+5.7%から+3.5%に大幅に落ち込んでおり、足元の資金調達環境の悪化に伴う実体経済への影響が現れつつあるものと見られる。インド準備銀行(中央銀行)は、インフレ率を政策目標である+3~6%の範囲に抑えるために、昨年1年間で政策金利を1回、預金準備率を9回引き上げる政策を採ってきたものの、次回の金融政策委員会では緊縮的なスタンスに変更が加わるのは必至と見られる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

図表1 インド 鋳工業生産の推移（前年比）



(出所) インド中央統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。